

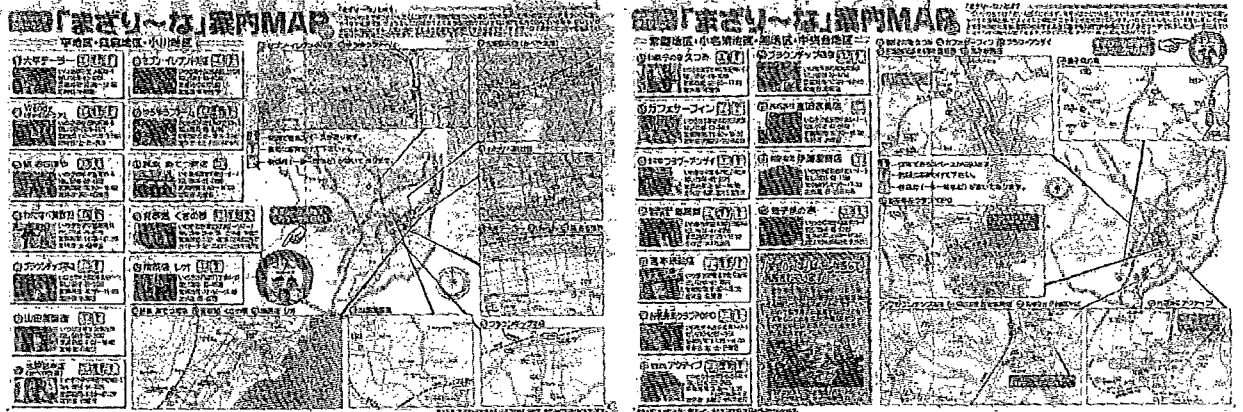
0

仮設住宅
だより

人ふれあい・希望

被災者らが気軽に立ち寄れる「まざり～な」のマップ完成

みんぷくほか支援団体が借り上げ住宅入居者向け事業として



いわき民報
2014.11.10

市内23店舗が加盟する「まざり～な」。みんぷく発行『一歩一報』10、11月号に掲載のマップ

NPO法人3・11被災者を支援するいわき連絡協議会(通称・みんぷく)はこの「まざり～な」をこの「まざり～な」の支援の一環「まざり～な」に協力する店舗をまとめたマップを完成させた。

まざり～なは、みんぷく、なこそ復興プロジェクト、NPO法人ザ・ピープル、NPO法人シャプラニール、市民による海外協力の会らが合同で展開。被災者や避難者が気軽に立ち寄れる拠点づくりを進めている。

マップは、みんぷく発行の無料情報紙『一歩一報』10、11月号に掲載してある。また、市内の23店舗、市役所、みんぷく事務所、交流スペースなど、さまざまな場所(150ヶ所)で、みんぷくホームページ(<http://www.mipuku.net/>)、Eメール(shapra@npo.or.jp)、LINE(<https://line.me/tv/p/00000000000000000000>)などで提供している。

2014.11.

ぷらっとで将棋大会開かれる より良い交流目指して男性利用者が企画



ぷらっとの腕前を競いあった将棋「ぷらっと」大会

市民や被災者、避難者といったユニークな催しの交流を目指した。14日、いわき市立市民センターで「ぷらっと」大会が開かれた。利用者は16人、将棋の腕前を競い合った。男性利用者が企画した「ぷらっと」大会は、市内23店舗が加盟する「まざり～な」の支援の一環として開催された。参加者は午後1時から、交流スペース(500円)を借り、将棋大会を開催した。参加者は午後1時から、交流スペース(500円)を借り、将棋大会を開催した。参加者は午後1時から、交流スペース(500円)を借り、将棋大会を開催した。

「ぷらっと」大会は、市内23店舗が加盟する「まざり～な」の支援の一環として開催された。参加者は午後1時から、交流スペース(500円)を借り、将棋大会を開催した。参加者は午後1時から、交流スペース(500円)を借り、将棋大会を開催した。

「ぷらっと」大会は、市内23店舗が加盟する「まざり～な」の支援の一環として開催された。参加者は午後1時から、交流スペース(500円)を借り、将棋大会を開催した。参加者は午後1時から、交流スペース(500円)を借り、将棋大会を開催した。

2014.11.10 14:31 10

2



1873年(明治6年)創刊

天書部生田

12.23 発行所
信濃毎日新聞社
長野本社 〒380-8546
長野市南東町 657番地
電話(026)
受付 236-3000 編集 236-3111
販売 236-3310 広告 236-3333
松本本社 〒399-8711
松本市宮田 2番10号
電話(0263) 編集 25-2151
販売・広告・事業 25-2153
©信濃毎日新聞社2014年

きこり

知らないうちに募金箱が回って
いた。20日、福島県いわき市で東
日本大震災被災者約120人が集
まったクリスマス会。メインは音
楽療法士で国立病院機構まつもと
医療センター(松本市) 職員の西
巻靖和さん(47) 小諸市IIが率い
るバンド「音だまくらぶ」のコン
サートだった。

福島からの思わぬ贈り物

が、長野県北部で11月22日に起き
た地震の被災者向けに急ぎよ会場
で義援金を募った。
募金箱は最初、会場入り口に
あった。「回って集めないと駄目
だ」。双葉町からの避難者にそ
う言われたシャプラニール職員の
佐藤緑さん(34)が、演奏中に協
力を求めた。次々と善意が集まっ
た。
音だまくらぶは2011年か
ら、音楽を通じた震災被災地の支
援をいわき市を中心に続ける。21
回目の活動となったこの日のコン
サートも、会場からのリクエスト
曲を演奏するスタイル。「おどる
ポンポコリン」「故郷」「花は咲
だ。」
く……。サクソホンの西巻さんら
メンバー6人が息の合った演奏を
披露した。リクエストした人が歌
ったり、会場全体で声を合わせた
りした。
演奏後、西巻さんは封筒を受け
取った。3万8900円入ってい
た。福島の被災者から信州の被災
者への突然の贈り物に、西巻さん
は「責任を持って届けます」と応
じた。メンバーも感激し、涙をこ
らえた。
西巻さんは23日、北安曇郡白鳥
村など大きな被害が出た地域の被
災者支援に役立ててもらおうため、
同村役場に義援金を届けるつもり
だ。(慎)

信濃毎日新聞
2014.12.23

報

2014年(平成26年)12月23日(火曜日)

(14)

いわき

被災者支援で
漫談や音楽

いわきの
ぶらっと

いわき市平のスカイ
ストア内の交流スペー
ス「ぶらっと」のクリ
スマス会は20日、市
内の生涯学習プラザで
開かれ、東日本大震災
と東京電力福島第一原
発事故の被災者、避難
者が楽しいひとときを
過ごした。
ぶらっとを運営する
NPO法人シャプラニ
ール市市民による海外
協力の会いわき事務所
の主催。ぶらっとで交
流している相双地区か
らの避難者や津波や地
震の被災者、ボランテ



クリスマス音楽などが披露され、
楽しく過ごす参加者=ぶらっと

イアラ約百二十人が訪
れた。
漫談や大学生による
イベントの他、長野県
小諸市の音楽療法士ら
でつくる「音だまくら
ぶ」がクリスマス音楽
などの演奏を披露し
た。音だまくらぶへの
お礼にと、長野県北部
地震への義援金も募っ
た。

福島民報

2014.12.23

いわ民 みんなの広場

被災状

況や出身地にかかわらず、どなたでも気軽に立ち寄れるスペース——平字一町目のスカイストア内に構える「ぶらっと」には市民、避難者、支援者とさまざまな人々が顔をそろえ、常に笑いが絶えない。

ぶらっと



「ぶらっと」を支えるスタッフの猪瀬絢子さん(左)と中村理佐さん(右)

同10月からは津波被災者、東電福島第一原発事故に伴う避難者に対する活動として、「ぶらっと」

運営主体は、NPO法人シャプラニール市民による海外協力の会(東)

買い物ついでに情報収集

京都新宿区。昭和47年、バンクラデシユにおける支援を目的に結成され、東日本大震災では23年3月18日から被災者救援に

なかま

2015.1.23付

いわき民報



2015年(平成27年)4月15日(水曜日)

福島 島

川沿い散策 桜楽しむ

いわきで「海外協力の会」

NPO法人「シャプレー、市民が満開の桜のラニール市民による 下で交流を楽しんだ。海外協力の会のお花 約三十人が参加し見会は十三日、いわき 市民同士の交流を市の新川沿いで開か 目的に、同団体が初め



新川沿いを散策し、交流を楽しんだ参加者

2015.4.15

福島民報

2015.12.21

て企画した。参加者は、同市スカイストア内の交流スペース「ぶらっと」に集合した後、新川堤防上の遊歩道を歩いた。散策後、昼食会が開かれ、参加者は食事をしながら和やかに懇談した。

情報紙「一歩一報」終刊

いわきの被災者支援団体 展示会も予定

いわき市の「3・11 住民のため、平地区の被災者を支援するいわき連絡協議会」が発行してきた情報紙「一歩一報」は十二月で終刊を迎えた。

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の影響で避難している。ジャパン・プラッ



「これからも支援を続けたい」と話す編集メンバー

トフォームの助成金を受けて計三十一号を発行。各団体の活動を紹介するだけでなく、月ごとの特集テーマやストレス解消に役立つコラムなどを連載した。終刊を機に、これまでのバックナンバーなどを並べた展示会を年度内に予定している。編集に携わってきた関係者は「一歩一報は終了するが、形を変えながら被災者への支援を続けていきたい」と話している。

まじりつたお茶会の様子



～泉蔵院での交流お茶会～



～まじりつた協和店へのツツのまじりつ
(米店)



～まじりつた協和店へのツツのまじりつ
(醸造店)

サークル活動のよけ



健康運動クラブ



将棋サークル



絵会年報サークル